

共同研究成果報告書

作成日 平成 21 年 4 月 17 日

研究課題名	「源氏物語」再生のための原典資料研究					
所属研究部局・職名	館長	ふりがな	いい はるき			
		研究代表者氏名	伊井 春樹			
研究形態	①. 基幹研究 2. 共同研究 3. プロジェクト研究 4. その他 ()					
研究の位置づけ	1. 中期目標・中期計画に記載 ②. その他 ()					
研究期間	平成19年度～平成20年度 2年計画の第2年次					
研究経費	年度	研究経費	経費内訳 (千円)			
			物品費	旅費	謝金等	その他
	平成19年度	813	3	49	105	656
	平成20年度	1,294	93	791	410	0
	平成 年度					
	平成 年度					
	平成 年度					
	平成 年度					
	総計	2,107	96	840	515	656

研究組織				
氏名	所属機関・部局・職名	現在の専門	役割分担	エフォート (%)
伊井 春樹	国文学研究資料館・館長	古代中世文学	研究計画全体の運用と統括	10
岡崎 久司	早稲田大学・客員教授	美術史	研究計画全体の連絡調整と評価	5
藤本 孝一	龍谷大学・客員教授	写本学	研究計画全体の連絡調整と評価	5
別府 節子	出光美術館・学芸員	美術史	研究計画全体の連絡調整と評価	5
山崎 誠	文学資源研究系・教授	古代中世文学	資料調査と研究の支援	5
中村 康夫	文学形成研究系・教授	古代中世文学	資料調査と研究の支援	5
山下 則子	文学形成研究系・教授	近世文学	資料調査と研究の支援	5
伊藤 鉄也	文学形成研究系・教授	古代中世文学	資料調査と研究の支援	5
加藤 昌嘉	法政大学・准教授	古代中世文学	資料調査と研究の支援	5
江戸 英雄	文学形成研究系・助教	古代中世文学	資料調査と研究の支援	5
久保木秀夫	文学資源研究系・助教	古代中世文学	資料調査と研究の支援	5
入口 敦志	文学資源研究系・助教	近世文学	資料調査と研究の支援	5
北村 啓子	アーカイブズ研究系・助教	情報学	資料調査と研究の支援	5
神野藤昭夫	跡見学園女子大学・教授	平安文学	資料調査と研究の支援及び評価	5
横井 孝	実践女子大学・教授	平安文学	資料調査と研究の支援及び評価	5
合計15名				

[概要 (まとめ)]

国文学研究資料館は平成20年4月より、東京都立川市の新施設を拠点とした研究機関として活動を開始した。従来の研究や業務はもちろんのこと、その中でも、広く日本文学の研究と普及、さらには地域との連携がますます重要なものとなってくる。

本研究は、新館開館を記念して、「源氏物語 千年のかがやき」と題する立川移転記念特別展示及びシンポジウムを実施開催する上で必要な、調査と研究を行うことを目的としたものである。

展示に関わる、文学・歴史・美術の各分野の原本を調査研究し、その成果を解題などに反映させ、図録・出版物を通して広く普及させていくこととなる。日本文学を国内外に普及させるためにも、基礎的な原典資料の調査研究は重要な課題である。本研究課題では、新出の展示資料等を共同研究の中で考察の対象とした。

具体的には、新出資料となる『源氏物語団扇画帖』『光源氏系図』『源氏物語歌合絵巻』の3点が対象となった。外部からの研究者を含めた15名による共同調査、共同討議で取り組んだ。

それと同時に、展示というものについての研究も、従来当館が取り組んでこなかったものなので、この基幹研究の中で行った。

特に平成20年度は、源氏物語展のための展示準備と図録作成に集中し、来館者数・図録販売部数ともに大きな成果が得られた。この成果は、展示という装置によって、古典文学をさらに広めることとなった。一般への関心を高めることにより、新しい立川という地における生涯教育や地域への貢献を果たすことにもつながったと思われる。

本年度の特別展『源氏物語 千年のかがやき』の終了をもって、本研究会の役割を善く終えたことになる。

なお、本基幹研究は、陽明文庫展の研究会へと引き継がれていくことになった。

[研究会・資料調査]

第1回研究会

- ・日程 平成19年4月17日(火)
- ・場所 国文学研究資料館中会議室
- ・共同討議 源氏物語特別展概要説明
- ・ 『源氏物語団扇画帖』調査報告(第1図～第10図)

□以降、毎月1～2回、合計11回にわたり、共同討議による解題作成検討会を実施した。

第12回研究会

- ・日程 平成20年5月26日(月)
- ・場所 国文学研究資料館 第2会議室
- ・発表者 討議形式
- ・題目(内容) 特別展・源氏物語展の名称の検討と図録の確認等

第13回研究会

- ・日程 平成20年6月25日(水)
- ・場所 第2会議室
- ・発表者 岡崎久司(複合領域研究系客員教授)
- ・題目(内容) 「資料展示の意義と手法」
特別展・源氏物語展開催にあたっての心得を中心とした講演

[展示・シンポジウム]

- (1) 平成19年9月22日 立川移転記念事業講演会・シンポジウム
「一千年目の源氏物語」(於・アミューたちかわ・立川市市民会館)を実施
- (2) 平成20年5月23日 開館記念式典
基幹研究プロジェクト「源氏物語」再生のための原典資料研究」としてパネル参加。
- (3) 平成20年10月4日～31日
特別展・「源氏物語 千年のかがやき」(於・国文学研究資料館展示室)を実施

[全体の研究成果]

(1) 展示図録『源氏物語 千年のかがやき』（思文閣出版、平成20年10月）を刊行。
3部構成で、『源氏物語団扇画帖』の索引を付す。

展示会場での販売部数は、994冊であった。

(2) 特別展「源氏物語 千年のかがやき」（国文学研究資料館展示室）を実施。

展示期間中（10月4日～31日）の入場者数は、4,069人であった。

今回の展示品は、国文学研究資料館が所蔵するものだけでなく、次の他機関所蔵の資料もお借りして構成した。

- 1) 古代学協会
- 2) 陽明文庫
- 3) 国立歴史民俗博物館
- 4) 天理図書館
- 5) 出光美術館
- 6) 宮内庁書陵部
- 7) 実践女子大学
- 8) 鞍馬寺（与謝野晶子原稿）
- 9) 京都府総合資料館（与謝野晶子原稿）
- 10) 個人（『三十六歌仙絵』紫式部像、『萬水一露』けんどん箱）

この内、重要文化財は次の4点である。

- ◎中山本『源氏物語』（国立歴史民俗博物館）
- ◎陽明本『源氏物語』（陽明文庫）
- ◎大島本『源氏物語』（古代学協会）
- ◎伏見天皇宸翰『源氏物語抜書』（国立歴史民俗博物館）

また、重要美術品は次の1点である。

- ◎『源氏物語絵巻』（天理図書館）

(3) 「源氏物語一千年紀」記念切手発行記念講演会（10月6日、国文学研究資料館・大会議室）で研究成果を発表。参加人数は200人であった。

[成果出版物・論文等]

(1) 展示図録『源氏物語 千年のかがやき』(国文学研究資料館編、思文閣出版、平成20年10月)を刊行。

(2) 「国文学研究資料館本『〔源氏物語歌合絵巻〕』の紹介——実践女子大学常磐松文庫本『住吉物語絵巻』にふれて——」(横井孝、実践女子大学文芸資料研究所『年報』第27号、平成20年3月30日)

(3) 「源氏物語と宮廷絵画の余光——新出『源氏物語歌合絵巻』の紹介と翻刻——」仁平道明=編『王朝文学と東アジアの宮廷文学《平安文学と隣接諸学5》』(横井孝、竹林舎、平成20年5月8日)

(4) 「国文学研究資料館蔵『光源氏系図』翻刻」(加藤昌嘉+古田正幸)(『平安文学の古注釈と受容(2)』陣野英則ほか編、武蔵野書院、2009年10月刊行予定)

(5) 「国文学研究資料館蔵『光源氏系図』解題・注解」(加藤昌嘉+久保木秀夫)(『平安文学の古注釈と受容(2)』陣野英則ほか編、武蔵野書院、2009年10月刊行予定)